（独立行政法人　教員研修センター委嘱事業）

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
（平成 19 年度　教育課題研修）

報　告　書

プログラム名	スクールリーダー育成のための包括的カリキュラム開発
プログラムの特徴 ワークショップ形式での集中研修、課題別研究グループ、実践情報を共有・蓄積するインターネット上のデータベース（掲示板を含む）により、教育改革を担うスクールリーダーを育成する包括的カリキュラムを提供する。	

平成 20 年 3 月

京都大学　　京都市教育委員会

Ⅰ　開発の目的・方法・組織

１．開発目的

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」（平成 17 年 10 月 26 日）では、「国の責任でナショナル・スタンダードを確保し、その上に、市区町村と学校の主体性と創意工夫により、ローカル・オプティマム（それぞれの地域において最適な状態）を実現する必要がある」と述べられている。この「義務教育の構造改革」については、市区町村や学校の創意工夫によって、より効果的な学校づくりやカリキュラム編成を実現させる可能性を持つものである。そのような可能性を活かすため、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっている。

そこで、京都大学大学院教育学研究科では平成 18 年度に「E.FORUM（教育研究開発フォーラム）」を設立し、スクールリーダーに求められる三大課題である「評価を活かした学校改善」「カリキュラム･マネジメント」「カリキュラム設計」に焦点をあてた「京都市スクールリーダー育成研修」と「全国スクールリーダー育成研修」を実施した。

この基盤の上にたち、平成 19 年度は、スクールリーダーに求められるより高度な専門的力量を育成するとともに、全国のスクールリーダーの間で継続的に情報交流を可能にするような、包括的な「全国スクールリーダー育成研修」のカリキュラム開発を目的とした。具体的には、ワークショップ形式での「スクールリーダー育成のための基礎講座」を 8 月と 12 月に集中研修として引き続き提供するとともに、新旧の受講者が一堂に会することのできる場として「学校教育研究フェスタ」や「実践交流会」を開催した。また、実践情報を共有・蓄積するインターネット上のシステムとして構築した「カリキュラム設計データベース（CDDB）」の改良と利用者拡大をめざした。さらに、受講者の有志と講師による「課題別研究グループ」の活動も始めた。なお、これらの活動の詳細については、E.FORUM のホームページでも報告している（http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/）。

２．開発の方法

E.FORUM では、「全国スクールリーダー育成研修」を実施するとともに、全国の教師たちの知見を共有・蓄積するシステムを開発している。E.FORUM が行っている活動の全体構造は、図 1 に示した通りである。

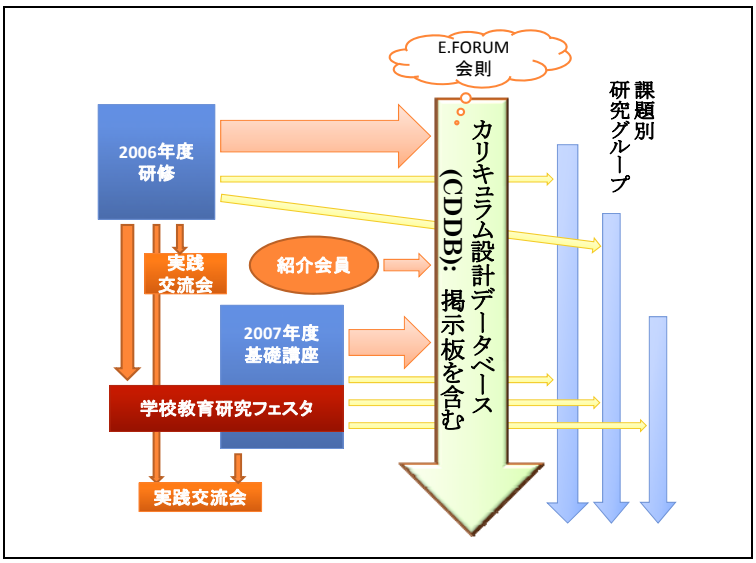

図１．E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修の全体構造（平成 18・19 年度）

以下、それぞれの活動について概要を紹介する。なお、それぞれの研修評価アンケート結果の詳細については、E.FORUM のホームページ（http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/）に掲載している。

① 「スクールリーダー育成のための基礎講座」

「スクールリーダー育成のための基礎講座」は、スクールリーダーにとっての三大課題である「評価を活かした学校改善」（担当：教授・高見茂、准教授・金子勉）、「カリキュラム･マネジメント」（担当：教授・田中耕治）、「カリキュラム設計」（担当：准教授・西岡加名恵、助教・中池竜一、石井英真）について基礎的力量を育成する研修である。参加者は、この研修を受講することにより、E.FORUM で共有される基本的な知識やスキルを身につけるとともに、E.FORUM 会員として「カリキュラム設計データベース」（後述）に登録される。

この研修は、8 月に【前期集中研修】を行い、終了後、研修内容を各自のフィールドで活かす活動を【宿題】として求める。さらに、12 月の【後期集中研修】では、【宿題】の成果と課題を持ち寄り、一層内容を深めるという構造になっている。

2007 年度については 8 月 19～21 日、12 月 26・27 日に開催し、【前期集中研修】には東は栃木から西は福岡まで 1 都 2 府 15 県から 52 名、【後期集中研修】には 1 都 2 府 12 県から 37 名の方々にご参加いただいた（研修内容が連続しているため、【後期集中研修】のみの参加は基本的には受け付けていない）。

② 「学校教育研究フェスタ」

「学校教育研究フェスタ」は、最新の政策動向や研究成果について情報提供を行うとともに、新旧の受講者が一堂に会して交流する機会を提供するものである。

2007 年度は 8 月 19 日（「基礎講座」初日）に開催することにより、受講者に研修内容への見通しを与えることをめざした。東は栃木から西は福岡まで 1 都 2 府 15 県から 76 名の方々の参加があった。午前中は講演「教育改革の時代を読む」（教授・田中耕治）を行い、新旧の受講者に最新の政策動向についての知見を提供した。午後には、「パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム開発」をテーマとして、愛知教育大学附属名古屋中学校教諭　佐野吾朗先生・植田則康先生、京都教育大学附属桃山地区学校園・教諭　前園律子先生、福岡教育大学附属福岡中学校・教諭　大洲隆一郎先生、山村俊介先生に実践報告をしていただいた（パフォーマンス課題とは、リアルな文脈において知識やスキルを使いこなすことを求めるような総合的な課題であり、思考力・判断力・表現力等の評価に適している）。さらに、受講者の関心に応じてグループに分かれ、実践交流をしていただいた。

③ 「実践交流会」

「基礎講座」修了者間の交流を深めるとともに、継続的な指導・助言を提供するため、年 1 ～ 2 回の「実践交流会」を行っている（2007 年度は、8 月 18 日と 3 月 29 日）。

8 月 18 日の「第 2 回　実践交流会」には 25 名の参加があり、教科別のグループに分かれて実践の成果と課題について検討した。また、講演「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」（助教・石井英真）では、スタンダードとは何か、どのように開発すればよいのかについて説明した。

3 月 29 日の「第 3 回　実践交流会」にも、20～30 名の参加が見込まれている。参加者間の実践交流会のほか、先進的な実践を行っている教員の実践報告も予定している。

④ 「カリキュラム設計データベース（CDDB）」

E.FORUM では、受講者が開発した様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「カリキュラム設計データベース（CDDB）」を開設している（図２）。CDDB の開設にあたっては、情報を共有するためのルールを定めた E.FORUM 会則を作成した（E.FORUM のホームページ参照）。また、2007 年 8 月には講師や受講者の紹介者も登録できる「紹介会員制度」を立ち上げた。

CDDB に蓄積された単元指導計画（パフォーマンス課題やルーブリックを含む）は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができる。また、前年度の受講者が作成した単元指導計画は、新年度の受講者の教材としても活用できるという利点もある。このことは、受講者にデータを作成する意義を直接的に実感させるものである。

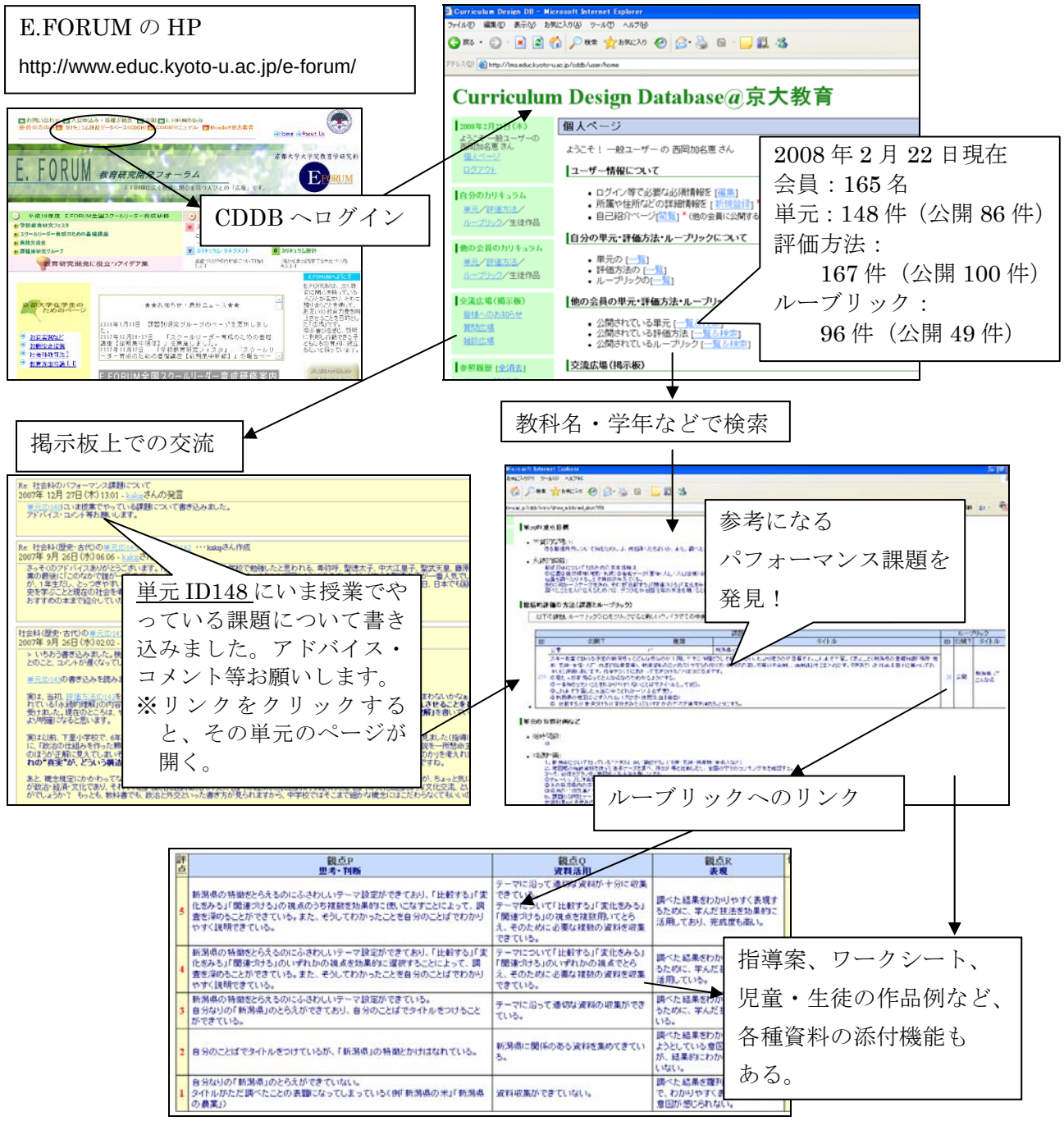

図２．「カリキュラム設計データベース（CDDB）」の機能

さらに、CDDB には掲示板も開設されており、日常的な議論が行われている。2006 年度は受講者と講師との質疑応答が中心であったのに対し、2007 年度には受講者間で共通テーマ（例. 小・中・高等学校を通して育成されるべき理科の本質的内容とは何か）をめぐる議論が行われるなど、交流が活性化している。さらに受講者が開催する公開研究会の情報も掲示板上で発信され、見学者が意見を寄せるなど、全国的なスクールリーダー間のネットワークが構築され始めている。

⑤ 課題別研究グループ

最後に、研修内容をさらに発展させるため、受講者の有志と講師との間で共同研究開発を行う課題別研究グループの活動も始まっている。

2007 年度は、京都市立衣笠中学校との連携により課題「ルーブリックを指導の改善に活かす」を、また京都府乙訓教育局との連携により課題「教育局を基盤とする『パフォーマンス課題とルーブリック』の開発」を探究しているほか、「英米におけるカリキュラム・マネジメントの研究」をテーマとした文献調査を進めている。

３．開発組織

本プログラムについては、次のような組織で取り組んだ。

○ 大学側担当者： 京都大学大学院教育学研究科

研究科長 川崎 良孝（総括・責任者）
教授 高見 茂（「評価を活かした学校改善講座」担当）
教授 田中 耕治（「カリキュラム・マネジメント講座」担当）
准教授 金子 勉（「評価を活かした学校改善講座」担当）
准教授 西岡 加名恵（「カリキュラム設計講座」、連絡調整担当）
助教 中池 竜一（「カリキュラム設計データベース」の開発担当）
助教 石井 英真（「カリキュラム設計講座」、連絡調整担当）

○ 教育委員会側担当者： 京都市教育委員会 京都市総合教育センター

指導室 首席指導主事 川勝 公二
研修課 課長補佐・企画研修係長 佐藤 武史
研修課 企画研修担当 竹島 やよい

また、ホームページの作成・運用、名簿管理などの作業のために事務補佐を雇用するとともに、研修補佐、記録作成補佐などのために大学院生を雇用した。

Ⅱ 開発の実際とその成果

A. 本研修の特徴とプログラム

本研修カリキュラムの最大の特徴は、その持続性・発展性にある。すなわち本研修は、1 回限りの研修で終わるのではなく、受講者が継続的に E.FORUM に関わり、最新の政策や研究成果を手に入れることを可能にするとともに、新たな知見を生み出すネットワークへの参加を促すものである。

具体的には、次のようなシステムになっている。まず、新規の受講者は、「スクールリーダー育成のための基礎講座」に参加することにより、基礎的な知識とスキルを身につけ、「カリキュラム設計データベース」に登録される。「基礎講座」は、2 回に分けて行われ、その間に宿題への取り組みが求められるため、5 日間の研修でありながら、実質的には半年間の研修となる。また、前年度の受

講者たちにも、「基礎講座」修了後も継続的に研究開発に取り組み、そこから得られた成果や疑問をE.FORUM へ持ち寄ることが期待されている。「学校教育研究フェスタ」や「実践交流会」は、最新の政策や研究成果に関する講演や、講師からのサポートを提供するだけでなく、新旧の受講者が交流する機会としての意義を持っている。さらに、「カリキュラム設計データベース」は、受講者たちが生み出した実践の知見を継続的に蓄積し、また掲示板上での日常的な質疑応答や議論を可能にしている。

ここではまず、研修の概要を理解してもらうため、以下、「研修プログラム」を 5 ページにわたって引用しておく。

表１.「E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修」プログラム

京都大学大学院教育学研究科
E.FORUM（教育研究開発フォーラム）
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
Fax：075-753-3033
Email: e-forum@educ.kyoto-u.ac.jp
URL: http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/

京都大学大学院教育学研究科　主催

平成19年度 E.FORUM
全国スクールリーダー育成研修プログラム

現在の日本においては、学校の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっています。そこで京都大学大学院教育学研究科では、平成18年度より「E.FORUM全国スクールリーダー育成研修」を実施しています。平成19年度は、下記の研修を行います（受講料は無料です）。

本研修にご関心をお持ちの方は、上記E.FORUM事務局までお問合せください。

記

Ⅰ．学校教育研究フェスタ

日　　程：　平成19年 8月19日(日)
対　　象：　平成18年度「E.FORUM京都市／全国スクールリーダー育成研修」受講者、及び平成19年度「スクールリーダー育成のための基礎講座」受講者、計80名程度
会　　場：　京都大学　吉田キャンパス（百周年時計台記念館　国際交流ホールⅠ・Ⅱ）

Ⅱ．スクールリーダー育成のための基礎講座

日　　程：　【前期集中研修】平成19年 8月19日(日)・20日(月)・21日(火)　(3日間)
※ 8月19日は、「学校教育研究フェスタ」に参加していただきます。
【後期集中研修】平成19年 12月26日(水)・27日(木)　(2日間)
対　　象：　全国からの希望者50名（うち京都市枠10名）(先着順)
会　　場：　京都大学　吉田キャンパス（文学部新館　第1・2講義室、学術情報メディアセンター　203号室）

Ⅲ．第2回・第3回　実践交流会

日　　程：　【第２回】平成19年 8月18日(土)、【第３回】平成20年 3月29日(土)
対　　象：　全国からの希望者20名程度
会　　場：　京都大学　吉田キャンパス（【第２回】文学部新館　第1・2講義室、【第３回】教育学部　第3演習室）

※ 本研修は、独立行政法人　教員研修センターの「平成19年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム（教育課題研修）」に採択された「スクールリーダー育成のための包括的カリキュラム開発」プロジェクトの一環として、行うものです。

研修内容紹介

Ⅰ.学校教育研究フェスタ（平成19年8月19日）

平成18年度「E.FORUM京都市／全国スクールリーダー育成研修」受講者の皆さん、及び平成19年度「スクールリーダー育成のための基礎講座」受講者の皆さんに一堂に会していただき、交流を深めていただくことをめざしています。また、以下のような内容を予定しています。

講演「教育改革の時代を読む」

最新の政策動向を解説し、今後の展望を提案いたします。

＜講師＞

田中耕治（京都大学大学院教育学研究科・教授）

実践交流タイム（ギャラリーウォークなど）

参加者の皆さんに実践交流をしていただきます。

※可能であれば実践資料をご持参ください（特に、平成18年度受講者の皆さん！）。配布資料の印刷をご希望の場合は８月３日(金)までに事務局にご送付ください。印刷して持参される場合は、20部程度（参加者全員への配布を希望される場合は120部程度）ご用意ください。

実践報告

「パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム開発」

先進的な研究開発を進めておられる３校にご報告いただきます。

＜報告＞

○子どもの知を拓く授業の創造

佐野吾朗先生、植田則康先生
（愛知教育大学附属名古屋中学校・教諭）

○幼小中連携における教科横断的な学習力の育成

前園律子先生
（京都教育大学附属桃山地区学校園・教諭）

○豊かに生きるためのリテラシー獲得を目指して
－基礎・基本の転移を促す学びの文脈づくり－

大洲隆一郎先生、山村俊介先生
（福岡教育大学附属福岡中学校・教諭）

◎研修の様子◎

最新の研究動向に関する講義

グループワークで考えを練る参加者の皆さん

全体でのシェアリング

ギャラリーウォークで情報収集

※本研修は、大半をワークショップ形式で行うことによって、明日の実践にすぐに役立つ知見を受講者とともに創造することをめざしています。ワークショップとは、「先生や講師から一方的に話を聞くのではなく、参加者が主体的に論議に参加したり、言葉だけでなくからだやこころを使って体験したり、相互に刺激しあい学びあう、グループによる学びと創造の方法」です（中野民雄『ワークショップ』岩波書店、2001年、p.ii）。

Ⅱ.スクールリーダー育成のための基礎講座(平成19年8月19日～21日、12月26日～27日)

本研修では、ワークショップ形式での集中研修を２回に分けて行います。【前期集中研修】終了後、【後期集中研修】までの間には、研修内容を受講者のフィールドで活用する【宿題】に取り組んでいただくとともに、インターネット上で講師が支援・助言を行います。【後期集中研修】では、【宿題】の成果と課題を踏まえつつ、さらに内容を深めます。５日間参加された方には、「修了証書」が授与されます。

※【前期集中研修】１日目は、「学校教育研究フェスタ」にご参加いただきます。残りの４日間で、平成18年度「E.FORUM全国スクールリーダー育成研修」と同様の内容をご提供します。
※【前期集中研修】のみの参加も可能です。また、昨年度【前期集中研修】のみに参加された方に限り、今年度【後期集中研修】のみに参加していただくこともできます。
※　ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立ちそうな資料をご持参ください。
※　受講前に、ご自身のＥメールアドレスをご用意ください。

β　評価を活かした学校改善講座

高見　茂
（京都大学大学院教育学研究科・教授）
金子　勉
（京都大学大学院教育学研究科・准教授）

魅力ある学校を作るためには、学校運営全体を見渡し、「改善ニーズの確認(See)－改善目標の設定と改善方策の計画(Plan)－方策の実施(Do)－評価(See)－改善目標再設定と改善方策の計画(Plan)…」のサイクルを組み立てることが必要です。本講座では、「スクールリーダーに求められる力量」を確認するとともに、各学校の教員がどのように効果的に学校評価を行い、評価結果を学校改善に活かせばよいのかについて検討します。

γ　カリキュラム・マネジメント講座

田中　耕治
（京都大学大学院教育学研究科・教授）

カリキュラムを改善し続けるためには、カリキュラム・マネジメントを効果的に行うことが必要です。そこで、本講座ではまず、カリキュラム・マネジメントとは何かを確認した後、各学校で現在どのような組織が作られているかを明確にします。次に、より効果的にカリキュラム・マネジメントを行うための具体的な方策を検討します。

δ　カリキュラム設計講座

西岡加名恵
（京都大学大学院教育学研究科・准教授）
中池　竜一
（京都大学大学院教育学研究科・助教）
石井　英真
（京都大学大学院教育学研究科・助教）

思考力・判断力・表現力など「確かな学力」を育成するためには、実際にそのような力を発揮することを求めるような課題(パフォーマンス課題)を用いることが必要です。本講座では、各受講者が希望される単元について、実際にパフォーマンス課題を考案していただきます。また、パフォーマンス課題の評価指標(ルーブリック)の作り方についても体験的に学びます。

Ⅲ.第2回・第3回　実践交流会(平成19年8月18日、平成20年3月29日)

研修内容を活かした実践や研究開発に取り組んでおられる方々にお集まりいただき、お互いの経験や計画を交流しながら新しい知見を生み出す機会にしたいと考えております。今年は、パフォーマンス課題の研究開発に関連する内容を中心に扱います（担当：西岡加名恵）。議論の進展に応じた講演会なども予定しています。

※　資料準備の都合上、２週間前までにE.FORUM事務局に参加申込みをしてください。
※　実践成果／実践計画の報告（15～20分）に必要な資料（A4判かA3判のもの）をご用意ください。２週間前までに原版をお送りいただければ、E.FORUM事務局で印刷いたします。直接ご持参いただける場合は、20部印刷してお持ちください。

平成19年8月18日
講演
「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」
スタンダードとは何か、どのように開発すればよいのかについて、ご提案します。

＜講師＞
石井英真
（京都大学大学院教育学研究科・助教）

グループでの実践検討

全体での実践交流・討論

日程表

◎学校教育研究フェスタ（司会：田中、西岡）

◎第２回　実践交流会（担当：西岡、石井）

19年 8月18日（土）	13:00-13:30 オープニング＆自己紹介	13:30-15:20 グループでの実践交流	15:30-16:00 全体での実践交流	16:00-17:00（石井） 講演「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」	17:10-18:00 全体討論、質疑応答	
	会場A：文学部新館　第1・2講義室					

◎スクールリーダー育成のための基礎講座（司会：西岡、石井）

【前期集中研修】

19年 8月19日（日）	9:30-10:00 受付	10:00-10:50 オープニング＆自己紹介	11:00-12:30（田中） 講演「教育改革の時代を読む」	12:30-14:00 昼休み	14:00-16:00 実践報告「パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム設計」	16:10-16:50 実践交流タイム（ギャラリーウォークなど）	17:00-17:30 全体討論、質疑応答
	会場B：百周年時計台記念館2階　国際交流ホールⅠ・Ⅱ				会場B：百周年時計台記念館2階　国際交流ホールⅠ・Ⅱ		
19年 8月20日（月）	9:00 諸連絡	9:15-10:45（西岡） δ パフォーマンス課題を活用する単元づくり(1)	11:00-12:30（西岡）	12:30-14:00 昼休み	14:00-15:00（金子） β 学校の自己点検・自己評価（1）	15:15-16:45（高見） β スクールリーダーに求められる力量	
	会場A：文学部新館　第1・2講義室				会場A：文学部新館　第1・2講義室		
19年 8月21日（火）	9:00-10:25（田中） γ カリキュラム・マネジメントの組織づくり	10:35-12:00（田中）	12:00-13:15 昼休み	13:15-14:30（西岡、石井） δ パフォーマンス課題を活用する単元づくり(2)	14:50-16:40（中池、西岡） δ カリキュラム設計 データベースの活用（1） 注★	16:40-17:00 クロージング（研修評価アンケート）	
	会場A：文学部新館　第1・2講義室			会場A：文学部新館　第1・2講義室	会場C：学術情報メディアセンター 203情報処理室		

8月19日18:00より懇親会（会費5,000円）を予定しています。会場B：百周年時計台記念館（国際交流ホールⅢ）

【後期集中研修】

19年 12月26日（水）	13:00-13:30 受付	13:30-13:45 リ・オープニング	13:45-15:15（田中） γ カリキュラム・マネジメントのノウハウ	15:30-16:30（金子） β 学校の自己点検・自己評価(2)	16:30-17:00 ギャラリーウォーク		
	会場A：文学部新館　第1・2講義室						
19年 12月27日（木）	9:00-10:25（西岡、石井） δ ルーブリックの作成と活用	10:35-12:00（西岡、石井）	12:00-13:30 昼休み	13:30-15:30（中池、西岡） δ カリキュラム設計 データベースの活用(2) 注★	15:45-16:30 クロージング（研修評価アンケート、修了式）		
	会場A：文学部新館　第1・2講義室			会場C：学術情報メディアセンター 203情報処理室	会場A:文学部新館 第1・2講義室		

12月26日18:00より懇親会（会費5,000円）を予定しています。会場B：百周年時計台記念館（会議室Ⅳ）

◎第3回　実践交流会（担当：西岡）　※下記の予定については、研究開発の進展やご要望などに応じて変更する場合もあります。

20年 3月29日（土）	10:00-10:30 オープニング＆自己紹介	10:40-12:00 グループでの実践交流	12:00-13:00 昼休み	13:00-14:00 グループでの実践交流	14:15-16:00 全体での実践交流	16:15-17:00 全体討論、質疑応答	
	会場D：教育学部　第3演習室			会場D：教育学部　第3演習室			

◎研修の様子◎

川崎良孝研究科長・挨拶

最新の政策動向の解説

ルーブリック作りを実体験

データベースの使い方を習得

注★部分については、予めEメールアドレスを取得のうえ受講していただく必要があります。無料Eメールアドレスの取得方法については、E.FORUMホームページの「入会申込み・各種手続き」をご参照ください。

講師紹介

◎高見　茂（京都大学大学院教育学研究科比較教育政策学講座・教授）

教育政策遂行のための物的・人的資源配分のあり方およびその決定要因・構造についての研究を進めています。研究成果としては、『教育委員会の組織と機能の実際』（共著、ぎょうせい、2001年）、『学級編制と地方分権・学校の自律性』（共著、多賀出版、2005年）などがあります。

◎田中　耕治（京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座・教授）

学力論・授業論・評価論を中心に研究を進めてきました。学校において効果的にカリキュラムづくりをするための手立てを、ともに考えていきたいと思っています。主な著書に、『指導要録の改訂と学力問題』（単著、三学出版、2002年）、『新しい時代の教育課程』（共著、有斐閣、2005年）、『よくわかる授業論』（編著、ミネルヴァ書房、2007年）などがあります。

◎金子　勉（京都大学大学院教育学研究科比較教育政策学講座・准教授）

教育行政および教育制度の比較研究を行っています。特に、高等教育および教員養成に関心を持っています。本研修では、学校と評価の捉え直しを目標としています。共著書として『ドイツの教育』（東信堂、1998年）、『近代日本中等教員養成に果たした私学の役割に関する歴史的研究』（学文社、2005年）などがあります。

◎西岡　加名恵（京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座・准教授）

カリキュラム論・教育評価論に関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。主な著書として、『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』（単著、図書文化、2003年）、『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』（共著、日本標準、2004年）、『時代を拓いた教師たち』（共著、日本標準、2005年）などがあります。

◎中池　竜一（京都大学大学院教育学研究科・助教）

認知科学と教育工学を専門に、コンピュータプログラムによる仮説形成・検証プロセスの学習支援を研究しています。本研修では、単元指導案などの共有・蓄積を可能にする「カリキュラム設計データベース」の開発に取り組みます。蓄積した指導案を互いに共有することで、より質の高い指導案の作成や授業改善に役立つことを期待しています。

◎石井　英真（京都大学大学院教育学研究科・助教）

学力形成の理論と実践について研究しています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。主な著書に、『教育評価の未来を拓く』（共著、ミネルヴァ書房、2003年）、『よくわかる教育評価』（共著、ミネルヴァ書房、2005年）、『カリキュラムをつくる教師の力量形成』（共著、教育開発研究所、2006年）などがあります。

＜懇親会＞

◎８月19日（日）、12月26日（水）の18：00から、懇親会を予定しています。会費は各回5,000円、会場は百周年時計台記念館２階（8月19日は国際交流ホールⅢ、12月26日は会議室Ⅳ）です。
こちらも是非ご参加ください。なお、参加ご希望の場合は、２週間前までにお申し込みください。

＜宿泊について＞

◎ 宿泊については、各自で手配してくださいますようお願いいたします。
◎ 京都大学から比較的近い宿としては、下記があります。

芝蘭会館別館	Tel. 075-751-2713	http://www.shirankai.or.jp/facilities/guide/index.html
京大会館	Tel. 075-751-8311	http://www.kyodaikaikan.jp/index.shtml
KKR京都くに荘	Tel. 075-222-0092	http://www.kuniso.com/

◎ 京都市内の宿泊施設については、下記ホームページでも見つけることができます。
京都市観光情報文化システム　http://kaiwai.city.kyoto.jp/raku/sight.php

★ 研修に関して、事前にＥメールでご連絡を差し上げる場合があります。また最新情報については、下記ホームページに順次掲載いたしますのでご参照ください。 http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/

B. 各研修の内容

以下、各研修について報告する。

１．スクールリーダー育成のための基礎講座

○研修の背景やねらい

「開発目的」に記載した通り、教育の規制緩和が進む中で、学校の教育改革を推進するスクールリーダーの育成・力量向上が急務になっている。そこで、「スクールリーダー育成のための基礎講座」では、β「評価を活かした学校改善」、γ「カリキュラム･マネジメント」、δ「カリキュラム設計」に焦点をあて、スクールリーダーに求められる基本的な知識とスキルを育成することをねらいとした。なお、αは、「全体会」「修了証書授与」など研修運営にかかわる部分である。

また、1 日目には、新旧の受講者が一堂に会する「学校教育研究フェスタ」への参加を求めることにより、研修の意義と方向性についての理解を促す。

○対象：　全国からの希望者（教育委員会主事、校長・教頭・研究主任・教諭など。
校種は、小学校・中学校・高等学校など。）

人数：　【前期集中研修】52 名、【後期集中研修】37 名
※連続性が高い内容なので、【後期集中研修】のみの参加は基本的には不可とした。

期間・会場・日程・講師については、前ページまでに掲載しているプログラムを参照されたい。

○各研修項目の配置の考え方

1 日目には、「学校教育研究フェスタ」（後述）に参加してもらうことにより、研修の意義と方向性について見通しを持ってもらう形とした。

2 日目以降は、β「評価を活かした学校改善」、γ「カリキュラム･マネジメント」、δ「カリキュラム設計」のそれぞれ講座について、【前期集中研修】－【宿題】―【後期集中研修】の流れで設計した。これは、【前期集中研修】を踏まえて、【宿題】で各受講者に研修内容を深めていただき、【後期集中研修】では【宿題】の成果にもとづくフィードバック等を行うための構造である。

各研修項目は下記の通りである。なお、時間数については、受講者に求める作業量なども配慮して配分した。

α全体会

研修会全体に関するオリエンテーションや諸連絡を行うほか、研修評価アンケートへの記入を求める。最後に、【前期集中研修】と【後期集中研修】の両方に参加した受講者に「修了証書」を授与した。

β評価を活かした学校改善講座

魅力ある学校を作るためには、学校運営全体を見渡し、「改善ニーズの確認（See）－改善目標の設定と改善方策の計画（Plan）－方策の実施（Do）－評価（See）－改善目標再設定と改善方策の計画（Plan）…」のサイクルを組み立てることが必要である。本講座では、「スクールリーダーに求められる力量」を確認したあと、各学校の教員がどのように効果的に学校評価を行い、評価結果を学校改善に活かせばよいのかについて検討した。

γカリキュラム･マネジメント講座

カリキュラムを改善し続けるためには、カリキュラム・マネジメントを効果的に行うことが必要である。そこで、本講座ではまず、カリキュラム・マネジメントとは何かを確認した後、各学校で現在どのような組織が作られているかを明確にする。次に、より効果的にカリキュラム・マ

ネジメントを行うための具体的な方策を検討した。

δカリキュラム設計講座

思考力・判断力・表現力・応用力など「確かな学力」を育成するためには、実際にそのような力を発揮することを求めるような課題（パフォーマンス課題）を用いることが必要である。本講座では、各受講者が希望される単元について、実際にパフォーマンス課題を考案していただく。各単元における「本質的な問い」を考えることによって、学年や学校階梯を越えたカリキュラムの系統性を見いだすことができる。また、パフォーマンス課題の評価指標（ルーブリック）の作り方についても体験的に学ぶ。

さらに、インターネット上に「掲示板」と「カリキュラム設計データベース」のシステムを開発することにより、全国のスクールリーダー間のネットワークを構築している。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目 （担当者）	時間数	目　　的	内容・進め方、形態、使用教材等
β スクールリーダーに求められる力量 （高見　茂）	【前期】 1時間 30分	学校経営の考え方に転換が起こっていることやスクールリーダーに求められる力量について、共通理解を図る。	【前期集中研修】 ・　学校経営が転換する時代においてスクールリーダーに求められる力量について講義した。「新しい義務教育システムの制度設計」について確認したのち、「PM理論」など最新の研究成果を紹介した。 ○　形態：　講義 ○　使用教材：　パワーポイント、配布資料（レジュメ）
β 学校の自己点検・自己評価(1) （金子　勉） β 学校の自己点検・自己評価(2) （金子　勉）	【前期】 1時間 【宿題】 ―― 【後期】 1時間	学校の自己点検・自己評価をめぐる基本的な概念の理解を図る。 また、教育政策の動向をつかむ上で必要となる、政策文書や学術論文等の読解力向上を図る。	【前期集中研修】 ・　自己点検・自己評価、外部評価、マネジメント・サイクルなどの基本的用語の定義を確認するとともに、それらにかかわる論点を明らかにした。 【宿題】 ・　「講義内容を踏まえて考えたことを書いてください。」 【後期集中研修】 ・　教育三法の改正について解説したのち、学校評価関連の法令、及び省令改正に関する初中局長通知について検討した。最後に、学校評価に関わる概念を整理した。 ○　形態：　講義、レポート執筆（宿題） ○　使用教材：　パワーポイント、配布資料（レジュメ）
γ カリキュラム・マネジメントの組織づくり （田中　耕治）	【前期】 2時間 50分	カリキュラム・マネジメントにかかわる基本的な概念の理解を図る。 その上で、自校の学	【前期集中研修】 ・　「カリキュラムと教育課程の異同」「カリキュラム・マネジメントの必要性」「教科と総合の関係」などについて講義した。 ・　自校の学校教育目標と教員組織図について、受講者

γ カリキュラム・マネジメントのノウハウ （田中　耕治）	【宿題】 ―― 【後期】 1時間 30分	校教育目標と教員組織図を検討し、効果的に「校内研修を進める組織づくり」について構想する。	間でグループに分かれ検討した。特徴的な事例についてグループから全体に報告した後、「校内研修を進める組織づくり」について考える上でのポイントを確認した。 【宿題】 ・「研修内容を踏まえて、自校の学校教育目標（または研究課題）の設定と組織づくり（それを支える学校の取り組み）などを試案的に提案してみてください。」 【後期集中研修】 ・提出された「宿題」のうち小学校・中学校・高校から１校ずつの事例を受講者から紹介していただいた。その後「組織マネジメントの基本的な考え方」と「今後の組織マネジメントに求められる課題」について検討した。 ○　形態：　講義、ワークショップ（グループワークと発表）、レポート執筆（宿題） ○　使用教材：　レジュメ、受講者の作品など
δ パフォーマンス課題を活用する単元づくり （西岡加名恵、石井　英真） δ ルーブリックの作成と活用 （西岡加名恵、石井　英真）	【前期】 4時間 15分 【宿題】 ―― 【後期】 2時間 50分	「思考力・判断力・表現力等」を育成・評価するために必要となるパフォーマンス課題を開発するためのノウハウを学ぶ。 また、その評価指標であるルーブリックの作り方を体験的に学ぶ。	【前期集中研修】 ・パフォーマンス課題とは何かについて、ビデオ紹介なども通して説明した。また、パフォーマンス課題を開発するために、単元における「本質的な問い」とは何かについて、考え始めた。 ・お互いが考えた「本質的な問い」「永続的な理解」について、グループに分かれて検討した。さらにパフォーマンス課題を考案し、受講生で作品を見合う「ギャラリーウォーク」を行った。 【宿題】 ・「パフォーマンス課題を取り入れた単元指導計画を一つ考えてきてください。【後期集中研修】で、カリキュラム設計データベースに入力していただきます。」 【後期集中研修】 ・２名の受講者から実践資料（子どもたちの作品）をご提供いただき、実際にルーブリック作りを体験していただいた。グループに分かれて採点する作業をした後、どのような評価基準を共通理解できるかを全体で議論した。 ○　形態：　ワークショップ（講師による説明とビデオ視聴、個人ワーク、グループワークと発表、ギャラリーウォークなど）

			○　使用教材：　ビデオ、レジュメ、受講者の作品・実践資料など
δ カリキュラム設計データベースの活用(1) （中池　竜一、西岡加名恵） δ カリキュラム設計データベースの活用(2) （中池　竜一、西岡加名恵）	【前期】 1 時間 50 分 【宿題】 ―― 【後期】 1 時間 45 分	受講者が開発した単元指導計画（パフォーマンス課題やルーブリックを含むもの）を共有・蓄積するための「カリキュラム設計データベース」を構築し、使い方を習得していただく。 データベース上には、講師と受講者の間や、受講者間の継続的な情報交流を可能にするため、「掲示板」も開設されている。	【前期集中研修】 ・　受講者に、「カリキュラム設計データベース」へのユーザー登録をしていただくとともに、単元指導計画の入力と検索の仕方について説明した。また、掲示板への書き込みの仕方についても、研修を行った。 【宿題】 ・　「『掲示板』活用の練習として、8 月末までに、自己紹介と研修の感想・意見などを少なくとも 1 回、書き込んでください。」 【後期集中研修】 ・　「カリキュラム設計データベース」におけるルーブリックの入力方法と各種実践資料を添付する機能について、研修を行った。また、掲示板と各種データとのリンクが貼られる機能が追加されたことについて説明した。 ○　形態：　説明とパソコンを使った入力作業 ○　使用教材：　レジュメ（利用マニュアル）、パソコン
α 会場の工夫	――	研修会場に工夫を凝らすことによって、休憩時間にも充実した時間が過ごせる形を提案する。	○　本研修では、研修会場に次のようなコーナーを設けた。 ・　「文具コーナー」：　受講者が自由に活用できる用紙やマジック、付箋紙などを提供。 ・　「質問コーナー」：　研修内容に対する質問を受け付け、後に「掲示板」上で回答した。 ・　「お知らせコーナー」：　公開研究会などに関する情報を交流するスペースとして提供した。 ○　【後期集中研修】では、有志の方に実践資料を持参していただき、簡単な説明とともに教室に展示していただいた。受講者は休憩時間に「ギャラリーウォーク」をし、展示された実践資料へのコメントを書いた。 ○　リラックスした雰囲気の中で受講者間の親睦が深まるよう休憩時間には BGM を流した。また、「お茶コーナー」で茶菓を提供した。

※実施要項、使用教材などについては、京都大学大学院教育学研究科『平成 19 年度「教員研修モデルカリキュラム開発」成果報告書』を参照のこと。

○実施上の留意事項

- ワークショップについては、グループワークが可能になるよう十分な会場スペースを確保することが必要である。また、時間の節約のため、予めテーブルの配置を変えておく、作業に必要な教具等を配布しておくといった工夫を行うと良い。
- 【宿題】については、少し負担が大きいという問題点が平成 18 年度の研修において指摘されていたため、一部、選択的な課題にするなど内容の精選を行った。
- 全国のスクールリーダー間で継続的なネットワークを構築する際には、情報を共有する上での倫理規定なども設定する必要があると思われる。したがって本研修では、「E.FORUM 会則」を策定し、周知に努めている。

○研修の評価方法、評価結果

本研修の評価のために、受講者には、【前期集中研修】、【後期集中研修】それぞれの終了時に「研修評価アンケート」の記入を求めた（寄せられた要望については、研修カリキュラムになるべく反映させるよう努力した）。

受講者に 5 段階で研修全体について評価を求めたところ、【前期集中研修】【後期集中研修】それぞれについて、「とても価値がある」19 名・14 名、「価値がある」16 名・16 名、「どちらともいえない」2 名・0 名、「あまり価値がない」0 名・0 名、「まったく価値がない」0 名・0 名と、全般的に高い評価が得られた。

【前期集中研修】について、受講者からは、「聞きながら納得できることや、勤務校の教育活動や授業を『こう変えたい』と具体的に想起している場面が多かった。特にパフォーマンス課題づくりで自身の考えが浮かびやすくなっていることに達成感を味わった」、「教育改革や学力観の変遷、学校評価やカリキュラムに関する基礎的知識など学ぶことができた。また、新しい情報を得ることができた」、「どの講座も現場職員にも理解できるよう分かりやすく説明してもらえた」、「理論についての講義を受ける部分、作業を通して考えを深める部分、交流を通して幅を広げる部分のバランスが良くとれているなと思います」、「ギャラリーウォークなどワークショップ型研修は様々な実践、考えを知るという意味で有意義でした」、「今求められている学校の姿（教育目標、組織等）について学ぶことができました」といったコメントが寄せられている。

また、【後期集中研修】については、「学校運営から教科指導に至るまでの全体を見据えた講座であった」、「前期研修の内容を実践と照らしあわせて、後期にワークショップの形で研修をより具体的に受けることができる」、「自己評価をどう進めるかについては、現代的な課題で指針を得ることができた。法的根拠も学習できたことがよい」、「『カリキュラム・マネジメントのノウハウ』や『ルーブリックの作成と活用』について実例（レポートや作品例）をもとに研修できたのでイメージがしやすかった」、「分からない者にも質問しやすい雰囲気を作っていただき助かります」といったコメントをいただいた。

一方で、研修時間を増やしてほしい、グループワークの部分を増やしてほしい、受講者間で交流する機会やブラッシュアップの研修を来年度以降も提供してほしい、学校危機管理・教職員評価・教職員の能力開発についても講義してもらいたい、といった要望も寄せられている。これらの要望については、平成 20 年度以降の研修計画に反映する予定である。

なお、「研修評価アンケート」の詳細な集計結果については、京都大学大学院教育学研究科『平成 19 年度「教員研修モデルカリキュラム開発」成果報告書』に記載している他、E.FORUM ホームページ（http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/）上でも公表しているので、参照されたい。

２．学校教育研究フェスタ

○研修の背景やねらい

平成 18 年度「E.FORUM 京都市／全国スクールリーダー育成研修」の受講者、ならびに平成 19 年度「スクールリーダー育成のための基礎講座」の受講者が一堂に会して、交流を深める機会を提供する。また、最新の政策動向を解説するとともに今後の展望を提案する講演「教育改革の時代を読む」、及び先進的な研究開発を進めている実践校の実践報告も行う。

○対象：　平成 18 年度「E.FORUM 京都市／全国スクールリーダー育成研修」の受講者、及び平成 19 年度「スクールリーダー育成のための基礎講座」の受講者。
（小学校・中学校・高等学校の校長・教頭・研究主任・教諭、教育委員会主事など）

人数：　76 名

期間・会場・日程・講師については、前掲プログラムを参照されたい。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目（担当者）	時間数	目　　的	内容・進め方、形態、使用教材等
オープニング＆自己紹介（川崎　良孝・西岡　加名恵・石井　英真）	50 分	研修に関する基本的な諸連絡を行うほか、関心の類似する参加者間でグループに分かれ、自己紹介を行う。	研究科長からの挨拶の後、研修に関する基本的な諸事項について、レジュメを用いて説明した。 また、関心が類似する受講者が近くに座るよう席を配置し、グループに分かれて自己紹介してくださるよう求めた。その際、研修評価アンケートの冒頭に研修開始時に記入する項目を設け、「この研修に参加された理由」「これまでの取り組みの中で、喜びや達成感を感じられた実績」「あなたご自身にとっての今の課題（知りたいことや悩んでいることなど）」「この研修（１日/３日）で得て帰りたいこと」をご記入いただき、その内容を活用した。 ○　形態：　ワークショップ ○　使用教材：　配布資料（レジュメ）
講演「教育改革の時代を読む」（田中　耕治）	1 時間 30 分	最新の政策動向を解説し、今後の展望を提案する。	学習指導要領の歴史を振り返り、学力問題の変遷をたどりつつ、最新の政策動向を確認することで、今後の展望について提案した。 ○　形態：　講演 ○　使用教材：　配布資料（レジュメ）
実践報告「パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム開発」	2 時間	先進的な研究開発を進めている 3 校による実践報告を聞く。	下記の実践報告が行われた。 ・　「子どもの知を拓く授業の創造」 愛知教育大学附属名古屋中学校教諭 佐野吾朗先生・植田則康先生 ・　「幼小中連携における教科横断的な学習力の育成」 京都教育大学附属桃山地区学校園・教諭 前園律子先生

			・　「豊かに生きるためのリテラシー獲得を目指して ―基礎・基本の転移を促す学びの文脈づくり―」 福岡教育大学附属福岡中学校・教諭 大洲隆一郎先生、山村俊介先生 ○　形態：　講演 ○　使用教材：　配布資料、パワーポイント
実践交流、 全体討論 （田中　耕治・ 西岡　加名恵）	1 時間 10 分	内容に関する質疑応答を行うほか、参加者の間で実践交流を行う。	パフォーマンス課題とルーブリックについて補足説明を行った後、グループに分かれて実践交流を行った。また、全体を通して生じた疑問点について質疑応答・全体討論を行った。 ○　形態：　ワークショップ ○　使用教材：　ホワイトボードへの板書

※実施要項、使用教材などについては、京都大学大学院教育学研究科『平成 19 年度「教員研修モデルカリキュラム開発」成果報告書』を参照のこと。

○実施上の留意事項

- 関心の類似した受講者が交流できるよう、あらかじめ受講者の関心を調査し、席を指定する資料を作成しておく必要がある。
- 実践報告については、今回は学校段階を中学校に絞ることにより、パフォーマンス課題を取り入れたカリキュラム開発にも様々なアプローチの仕方があることを伝えることをねらった。中学校の実践をとりあげたのは、小学校・高等学校の実践にも与える示唆が大きいと予想されたためである。

○研修の評価方法、評価結果

「フェスタ」終了時に、参加者には「研修評価アンケート」の記入を求めた。5 段階で「フェスタ」に対する評価を求めたところ、「とても価値がある」23 名、「価値がある」26 名、「どちらともいえない」1 名、「あまり価値がない」0 名、「まったく価値がない」0 名、「無記入」6 名と、全般的に高い評価が得られた。

自由記述欄では、「実践報告や質疑応答、ご助言、とても勉強になりました。同じ教科の先生からご意見をいただきとても助かりました」、「パフォーマンス課題やルーブリックについての実践例を知ることができ、大変興味が持てた。交流しようという企画があり大変役立った」、「講義、実践発表、参加者同士の意見交換など、バラエティに富んでいて時間の長さを感じさせなかった」、「先進的な例、様々なとらえ方の様子（新しい概念なので）を知ることができてよかった」、「活発で楽しい時間を過ごせた上に、知的な刺激をたくさん頂いた」、「非常にオープンな会で意見を出しやすいところが素晴らしい」、「質の高い学力をつけさせるという意味が分かってきた（用意された研修内容がとても深かったので）」、「新しいこれからの教育をみた感じがする」といった、肯定的なコメントが寄せられた。

一方で、「実践報告が中学校のみ、それも附属学校だけであり、公立小中学での報告も知りたいところである」、「実践例を知る前に、パフォーマンス課題やルーブリックの作り方の基本を学んでおく方が、より理解が深まると思った」、「もうあと 1 時間あった方がいいかなぁ…」といったご意見もいただいた。これらのご意見については、来年度の研修カリキュラムの改善に役立てた

いと考えている（具体的には、「基礎講座」のあとに「フェスタ」を位置づけることにより、基本用語を理解した後に実践報告を聞ける形にするなどである）。

３．「実践交流会」

○研修の背景やねらい

平成 18 年度「E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修」の受講者より、受講者同士で実践交流を行う時間がもっと欲しいという要望が出されたことにより始まったものである。研修内容を活かして各自が取り組んでいる実践や研究開発の経験や計画を交流しながら、新しい知見を生み出すことをねらっている。

また、研究の進展に応じて、適宜、最新の理論や実践を紹介する講演会なども企画する。

○対象：　平成 18 年度「E.FORUM 京都市／全国スクールリーダー育成研修」の受講者、平成 19 年度「スクールリーダー育成のための基礎講座」の受講者、及び受講者の紹介者。

人数：　第 1 回　12 名、第 2 回　25 名、第 3 回　20～30 名（未定）

期間・会場・日程・講師については、前掲プログラムを参照されたい。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目 （担当者）	時間数	目　　的	内容・進め方、形態、使用教材等
第 1 回 実践交流会 （西岡加名恵）	6 時間	受講者が各自 20 分程度の実践報告を持ち寄り、グループに分かれて交流するほか、全体での討論を行う。	10:00-10:30 開会、自己紹介、グループ分け 10:40-12:00 グループでの実践交流タイム① 13:00-14:00 グループでの実践交流タイム② 14:15-16:00 全体での実践交流・討論 16:10-17:00 来年度の活動について、閉会 ○　形態：　ワークショップ ○　使用教材：　配布資料（レジュメ）
第 2 回 実践交流会 （西岡加名恵・石井　英真）	5 時間	受講者が各自 20 分程度の実践報告を持ち寄り、グループに分かれて交流する。また、講演「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」を行い、全体で討論する。	13:00-13:30 オープニングと自己紹介 13:30-15:20 グループでの実践交流 15:30-16:00 全体での実践交流 16:00-17:00 講演「アメリカにおけるスタンダード開発の動向」（助教・石井英真） 17:10-18:00 全体討論・質疑応答、閉会 ○　形態：　ワークショップ ○　使用教材：　配布資料、パワーポイント
第 3 回 実践交流会 （西岡加名恵）	6 時間 （予定）	受講者が各自 20 分程度の実践報告を持ち寄り、グループに分かれて交流する。また、中学校社会科の実践報告を共有したのち、全体で討論す	10:00-10:30 開会、自己紹介、グループ分け 10:40-12:00 グループでの実践交流タイム① 13:00-14:00 グループでの実践交流タイム② 15:00-16:00 実践報告「中学校社会科におけるカリキュラム開発」（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校・教諭　三藤あさみ先生） 16:10-17:00 質疑応答・全体討論、閉会

		る。	○　形態：　ワークショップ ○　使用教材：　配布資料（レジュメ）など

○実施上の留意事項

- 予め参加人数を把握し、必要部数の実践資料を用意する。
- 受講者が実りある実践交流をできるよう、予めグループ分けの案を考えておく。
- 研究開発の進展に伴い、発展的な内容の講演を提供する。

○研修の評価方法、評価結果

各実践交流会終了時に、参加者には自由記述によるコメントを求めている。第 1 回実践交流会においては、「みなさんの実践から具体的にどうしていけばよいのかたくさん学ばせて頂けて、とても充実した時間を過ごさせて頂きました」、「普段交流のない高校の先生方と実践を通してお話をする機会がもてて、発達のたてのつながりが垣間見えてよかったです」といったコメントをいただいた。また、第 2 回実践交流会については、「ここに来ると、悩みを聞いてもらえたり、新しい情報を得られたりして新鮮です」、「自分が悩んだりつまずいたこと、考えていることは、他の先生の悩みでもあったりすることがわかるだけでもホッとします」、「[初めての参加で] 緊張半分・不安半分で……したが、非常に和やかな雰囲気の中で、多くの話題について話を聞くことができ、大変有意義な時間でした」、「昨年度、……未消化だった部分が、本日の実践交流会である程度解けました」、「スタンダードについては、……今日具体的な内容を知り、必要かつ活用できるのではと思いました」といったコメントをいただいた。

４.「カリキュラム設計データベース（CDDB）」

○研修の背景やねらい

E.FORUM の研修受講者、及びその紹介者である E.FORUM 会員が開発した単元指導計画（パフォーマンス課題とルーブリックを含む）を継続的に蓄積・共有する。また、掲示板を活用することにより、質問に対して回答する、受講者間の交流を活性化するなど、継続的なサポートを提供する。

○対象・人数：　E.FORUM 会員　2008 年 2 月 22 日現在 165 名
（管理者 3 名、アドバイザー4 名、一般会員 142 名、学生会員 16 名）

期間・会場・日程・講師：　インターネット上で適宜。

○内容、留意事項ほか

- データベースの解説にあたっては、情報を共有する上での基本的ルールを共通理解するため、「E.FORUM 会則」を策定した（E.FORUM 会則は、ホームページ上に公開している）。
- 研修の受講申込用紙においてメールアドレスを知らせていただき、それをユーザー名として、あらかじめデータベースに会員登録しておく。研修当日、登録証を配布する。
- 「スクールリーダー育成のための基礎講座」の「カリキュラム設計」講座において、パフォーマンス課題を含んだ単元指導計画の作成やルーブリックの作成を課題とし、研修の場において入力していただく。また、検索や資料添付、掲示板の利用などについて研修を行う。

- 研修の際に「質問コーナー」においていただいた質問を、講師が掲示板に書き込み、回答を行う。また、掲示板上で寄せられた質問に対しても、逐次、回答する。
- 2006 年度は受講者と講師との質疑応答が中心であったのに対し、2007 年度には受講者間で共通テーマ（例．小・中・高等学校を通して育成されるべき理科の本質的内容とは何か）をめぐる議論が行われるなど、交流が活性化している。さらに受講者が開催する公開研究会の情報も掲示板上で発信され、見学者が意見を寄せるなど、全国的なスクールリーダー間のネットワークが構築され始めている。

○研修の評価方法、評価結果

「学校教育研究フェスタ」、「スクールリーダー育成のための基礎講座　【前期集中研修】・【後期集中研修】」の終了時に、研修評価アンケートによって、「カリキュラム設計データベース」への評価をしていただいた。「フェスタ」と「基礎講座【前期集中研修】」の終了時、また「基礎講座【後期集中研修】」終了時に回収されたアンケートにおける 5 段階評価はそれぞれ、「とても価値がある」22 名・21 名、「価値がある」9 名・8 名、「どちらともいえない」1 名・0 名、「あまり価値がない」0 名・0 名、「まったく価値がない」0 名・0 名、「その他」1 名（4.5 点）・0 名、「無記入」4 名・1 名という結果であった。データベースの利用が進むにつれて、意義が実感されている様子がうかがわれる。

自由記述欄では、「すばらしい！の一言です。……全国の進んだ実践に触れるだけでなく、人と人とをつなぐ役割も担うすばらしい試みだと思います。大いに活用させていただきます」、「すごく使いやすいと思います。これだといろいろな人との情報を共有することができるのがとても心強いと思いました」、「データベースにたくさん資料がたまるのは楽しみです。次期教育課程の編成を本校では考えはじめているのでとても参考になりました」、「情報交換や西岡先生に直接ご相談できる場であり、すばらしいです」、「質問広場や雑談広場など、興味のある内容を気軽に見て勉強できること［がよい］」といった高い評価が寄せられている。

一方で、「［改善すべき点は］データの数ですね。検索かけて、20～30 はデータが欲しいと思います（あなたも頑張れと言われそうです）」、「本当は、それぞれが家でもっと入力すればいいのですよね。なかなか家では出来ないのが申し訳ない気持ちです」といった声もある。データの数を増やすために、今後、代理入力などのサービスも検討していきたい。

５．課題別研究グループ

○研修の背景やねらい

「2007 年度スクールリーダー育成のための基礎講座（2006 年度全国スクールリーダー育成研修）」の研修内容を踏まえた上で新たに登場している課題を探究するため、受講者の有志と講師との共同研究を行うものである。これにより、スクールリーダーに必要とされる、より専門的な知見を生み出すだけでなく、参加する受講者に高度な研究開発能力を育成することをめざしている。

○内容ほか

平成 19 年度は、下記の 3 グループが活動を行った。

衣笠グループ　「ルーブリックを指導の改善に活かす」

- 課題：　ルーブリックづくりを単なる評価基準づくりに終わらせず、指導の改善につなげていくためにはどうしたらよいか。そのための校内研修のあり方について探究する。

- 参加者：　京都市立衣笠中学校　北原琢也校長、森千映子教諭、井上典子教諭、山下純夫教諭、出嶌和茂教諭　（以上、2006 年度受講者）、大塚宗治副校長（2007 年度受講者）ほか研究推進委員会のメンバー、及び京都大学　西岡加名恵
- 背景：　京都市立衣笠中学校においては、2004 年度よりパフォーマンス課題とルーブリックの開発研究に取り組んできた。これまでのところ、各教科において代表の教員がパフォーマンス課題を開発し評価計画に位置づけるところまでは進んできたが、それを授業改善につなげるという点では課題が残っている。本研究グループでは、パフォーマンス課題を評価するためのルーブリック作りに学校の全教員が参加する校内研修を組織することを通して、授業改善の具体的方策を探る。
- 活動：　校内研修において、パフォーマンス課題とルーブリックの作り方を共通理解したのち、各教科会で生徒たちの作品を持ち寄り、ルーブリック作りを行った。また、各教科会でこれまでの研究開発の成果と今後の課題を確認し、共同で公開研究会での公開授業の指導案作成に取り組んだ。西岡は研究プロセスについて一貫して指導・助言を行うとともに、指導案については個別の検討会も行った。
- 成果と課題：　パフォーマンス課題とルーブリックについての教員の理解が深まった。とりわけルーブリック作りから授業の改善へとつながる道筋が明確化されたことには、大きな意義が認められる。今後は、学習指導要領の改訂も見通しつつ学力を構造的に捉えてより洗練されたパフォーマンス課題を開発すること、また単元間の構造化や教科と総合学習の相互環流をも視野に入れつつ効果的な指導を実現することが課題となっている。

乙訓グループ　**「教育局を基盤とする『パフォーマンス課題とルーブリック』の開発」**

- 課題：　教育局（京都府の地方教育事務所）においては、複数の学校を集めて研修を行っている。市町や学校を越えて「パフォーマンス課題とルーブリック」の開発に共同で取り組むことにより、地域の教育改善に役立つことをめざす。
- 参加者：　京都府乙訓教育局　盛永俊弘 総括指導主事　（2006 年度受講者）、向日市立第二向陽小学校 伊豆優子教諭、長岡京市立長岡第四小学校 井尻美和子教諭、長岡京市立長岡第十小学校 山崎慶子教諭　（以上、2007 年度受講者）ほか PISA 型学力開発 project メンバー、及び京都大学　西岡加名恵・中池竜一
- 背景：　E.FORUM は、各地域の教育改善を推進するスクールリーダーを育成することをめざしている。しかしながら、「スクールリーダー育成のための基礎講座」の内容を活かした地域教育局の研修プログラムが具体的にどのようなものとなるのかは、明らかになっていない。本研究グループでは、「パフォーマンス課題とルーブリック」というアイデアを活かしつつ、地域の教育改善に役立つ研修プログラムを開発する。
- 活動：　パフォーマンス課題とルーブリックの作り方についての研修を行い、パフォーマンス課題を取り入れた実践を行っていただいた。また、メンバーが作品を持ち寄り、共同でルーブリック作りに取り組んだ。
- 成果と課題：　メンバーの間で、パフォーマンス課題とルーブリックを活用することの意義が共通理解された。とりわけルーブリックについては、評価基準を共通理解して指導を改善し、子どもたちの自己評価力を育成する上で意義が大きいという評価が得られた。年度末には、メンバーのうちの 8 名が、パフォーマンス課題と、それに対応するルーブリックと作品例を示した報告を作成するにいたった。今後は、パフォーマンス課題の理解を一

層深めるとともに、E.FORUM「カリキュラム設計データベース」とも連携しながら実践例を蓄積することが課題となっている。

英米グループ　「英米におけるカリキュラム・マネジメントの研究」

- 課題：　「学校を基礎にしたカリキュラム開発」の伝統のある英米において蓄積されているカリキュラム・マネジメントの理論と実践を学ぶことにより、日本における実践への示唆を得る。
- 参加者：　大阪府立長吉高等学校　前橋由紀子教諭（2007 年度受講者）、及び京都大学　田中耕治・西岡加名恵
- 活動と成果：　2007 年度は、英国におけるカリキュラム・マネジメントの文献を収集し、その中から特に示唆に富むものとして、C.ローズほか著『メンタリング、コーチング、同僚ネットワーク作りのための実践的手引き』（Rhodes, C., Stokes, M. & Hampton, G., *A Practical Guide to Mentoring, Coaching and Peer-Networking: Teacher Professional Development in Schools and Colleges*, London, Routledge-Falmer, 2004）を選定し、抄訳（章タイトルと各章で紹介されている活動（activities）のリスト、及び第 4 章の邦訳）を作成した。
- 課題：　次年度は、米国におけるカリキュラム・マネジメントの文献を検討することを課題としたい。

C. 今後の課題

○課題

1 年間の取り組みを通して、当初構想していた「包括的カリキュラムの開発」は、基本的に実現できたと考えている。「スクールリーダー育成のための基礎講座」により基礎的な知識とスキルを身につけていただく。また、「基礎講座」修了後も「学校教育研究フェスタ」・「実践交流会」へリピーターとして参加していただき、最新の政策や研究の動向を把握したり他校の実践との交流を深めたりする機会とする。さらに、「カリキュラム設計データベース（CDDB）」で継続的に知見を蓄積・共有するとともに、そこに開設されている掲示板上で日常的な交流を行う。――このような E.FORUM のシステムは、ユニークな研修形態として、受講者や外部評価者からも高く評価されている。

今後は、次の 3 点が課題になると考えられる。

第一に、「スクールリーダー育成のための基礎講座」を引き続き提供することにより、E.FORUM 会員の拡大を図ることである。利用者が増えることにより、「カリキュラム設計データベース」の内容も一層充実することが予想される。リピーターを惹きつける企画として、「学校教育研究フェスタ」・「実践交流会」の内容についても、さらに充実を図っていくことが求められる。危機管理や教職員の能力開発、各教科教育の指導法、特別支援教育など、より特化した発展的な内容への要望も見られる。「学校教育研究フェスタ」については、毎年新たな内容の講演を提供する、課題別の分科会で研究会を行うといった形態も検討していきたい。

第二に、新たに登場している教育課題に対応して、「スクールリーダー育成のための基礎講座」の研修内容を改善することである。現在の研修内容については総じて高い評価が得られている。しかしながら一方で、次のように新たな要望も、京都市教育委員会や受講者、連携している学校から寄せられている。

- 教育基本法や学校教育法、教育職員免許法など各種の教育関連法規が改正されたことの意味を正確に理解するとともに、法改正が象徴するような現代的課題に対応するための組織作りと、そこでスクールリーダーが果たすべき役割について知りたい。
- 学習指導要領の改訂を迎え、今後の教育課程改革の方向性に関する情報を得るとともに、学校における教育課程改善の見通しを獲得したい。特に、「習得」・「探究」とともに強調されることになる「活用（思考力・判断力・表現力等の育成方法）」について、具体的な中身を知りたい。
- 全国学力・学習状況調査をはじめとする学力調査など各種統計調査に関して、教育的に活用するための統計リテラシーを得たい。
- いわゆる「いちゃもん」をつけてくるような保護者への対応などが課題となる中で、子どもたちや保護者との信頼関係を築く方策を知りたい。

したがって、これらの新たな課題に対応できる内容を盛り込んだ研修カリキュラムの開発に、引き続き取り組んでいく予定である。

第三に、教員免許状更新講習との関係についての検討が課題としてあげられる。平成 21 年度より教員免許更新制度の導入が予定されており、課程認定大学として京都大学にも教員免許状更新講習の提供が期待されていると考えられる。したがって、現在提供している「スクールリーダー育成研修」と教員免許状更新講習を、どのように関連づけつつ提供していくのかについて、平成 20 年度中に検討し、結論を出す必要があるだろう。

Ⅲ　大学・教育委員会連携による研修についての考察

今回、京都市教育委員会との討議を踏まえて研修計画を策定できたことは、学校現場のニーズを踏まえた研修カリキュラム開発を行う上で大きな意義があった。また受講者の募集にあたっても、京都市教育委員会には多大なご協力をいただいた。

そもそも本研修の主要部分は、京都市立小・中学校と京都大学との共同研究の成果から生み出されたものである。大学と教育委員会との連携も、そのようなフィールドにおける信頼関係を基盤にして可能となったと考えられる。

連携を推進・維持するためには、計画策定の段階から担当者が合議する機会を確保し、基本方針を確認するとともに、電子メール等を活用した日常的な情報交換・意見交換が必要である。

最後に、「全国スクールリーダー育成研修」の実施状況については、京都市教育委員会にも報告し、平成 20 年度以降の連携にあり方について協議した。「全国スクールリーダー育成研修」に京都市の教員が参加することの意義について同意が得られ、平成 20 年度以降についても引き続き両者の連携のもとで「全国スクールリーダー育成研修」を提供していくことについてご了承をいただいた（詳細については、次項を参照のこと）。平成 18・19 年度に開発してきた研修内容を一層洗練させるとともに、新たに確認された課題について共同研究する体制を強化していくことが、今後の課題である。

Ⅳ　その他

以上の成果と課題を踏まえ、平成 20 年度については、下記の研修を予定している（受講希望者は、E.FORUM 事務局までメールでお問い合わせいただきたい：　e-forum@educ.kyoto-u.ac.jp）。

なお、研修の実施にあたっては、**教育学研究科の教員**（教授４名　高見茂、田中耕治、桑原知子、楠見孝；准教授２名　金子勉、西岡加名恵；助教１名　中池竜一）が**コーディネーター・チーム**として一貫した責任を持ち、研修計画の作成（研修カリキュラムの原案作成、ワークブックの執筆、事前検討会の実施、教育委員会等からの助言にもとづく改善など）、研修の実施（講師、ファシリテーターとしての担当など）、受講者等からの評価にもとづくカリキュラム改善を行う。

1　「スクールリーダー育成のための基礎講座（改訂版）」の提供（8 月 20～22 日、12 月 26 日）

全国からの希望者に対して基礎的な研修内容を提供し、インターネット上のシステムを活用できる E.FORUM 会員を増加させる。平成 20 年度については、下表のプログラムを予定している。

日程（予定）	内容	担当
【前期集中研修】 8 月 20 日（水）午後	教育課程改革の動向（学習指導要領改訂と今後の方向性）	田中　耕治
8 月 21 日（木）午前	カリキュラム設計（思考力・判断力・表現力等の育成・評価に役立つパフォーマンス課題づくりのワークショップ）	西岡　加名恵 中池　竜一
8 月 21 日（木）午後	法改正と組織作り（リーダーシップ論や危機管理を含む）	高見　茂 金子　勉
8 月 22 日（金）午前	教職の専門知（教育データ・報道を批判的に読む統計リテラシーの育成、教員のキャリア発達）	楠見　孝
8 月 22 日（金）午後	カリキュラム設計（思考力・判断力・表現力等の育成・評価に役立つパフォーマンス課題づくりのワークショップ（続き）、及び「カリキュラム設計データベース」の活用）	西岡　加名恵 中池　竜一
【後期集中研修】 12 月 26 日（金） 午前・午後	カリキュラム設計（パフォーマンスを評価する評価基準表（ルーブリック）作成のワークショップ、及び「カリキュラム設計データベース」へのデータ入力）	西岡　加名恵 中池　竜一

2　「学校教育研究フェスタ」の開催（8 月 23 日）

平成 18～20 年度の受講者を対象に、午前中は講義（担当：桑原知子）を行う。午後は、分科会に分かれて実践交流を行うとともに、「教科において活用されるべき基礎・基本」をテーマに議論を深める。その際には、「カリキュラム設計データベース」に蓄積されているデータを分析対象として活用するとともに、必要に応じて教科教育専門家を招き、指導・助言を求める。

日程（予定）	内容	担当
【前期集中研修】 8 月 23 日（土）午前	講演「カウンセリング・アプローチ ―― 子どもと保護者の心を理解する」	桑原　知子
8 月 23 日（土）午後	実践交流会「教科において活用されるべき基礎・基本」	西岡　加名恵 ほか

3　インターネット上での情報の交流・蓄積（常時）

既に開設している「カリキュラム設計データベース（掲示板を含む）」にさらに改良を加え、平成18～20年度受講者及びその紹介者に対して継続的なサポートを提供するとともに、データベースへより多くの知見を蓄積する。

4　「課題別研究グループ」の活動（年間を通して、各グループ数回程度）

基礎講座の内容を踏まえた上で新たに登場している課題を探究するため、平成18～20年度受講者の有志と講師とが共同研究を行う「課題別研究グループ」の活動を行う（課題別研究ループのいくつかについては、京都市立学校をフィールドとして研究開発を進めるものである）。これは、受講者と講師が共同研究開発によってスクールリーダーに必要となる知見をさらに生み出すだけでなく、参加する受講者により高度な研究開発能力を育成するものである。

5　「実践交流会」の開催（3月29日）

平成18～20年度の受講者、及びその紹介者を対象に、各自が実践の成果と課題を持ち寄り、交流する機会を提供する。あわせて研修担当講師に対して寄せられる質問についても対応する。さらに、「カリキュラム設計データベース」上での議論の進展や「課題別研究グループ」の研究開発の進展を踏まえ、最新の研究成果を紹介する。

［キーワード］　スクールリーダー、リーダーシップ、学校評価、マネジメント、カリキュラム、学力、パフォーマンス課題、ルーブリック、データベース、ワークショップ

［人数規模］　D．51名以上（補足事項　「スクールリーダー育成のための基礎講座」の定員は50名、「学校教育研究フェスタ」の定員は80名）

［研修日数(回数)］　C．4～10日（補足事項　「スクールリーダー育成のための基礎講座」は5日間、「学校教育研究フェスタ」のみであれば1日間、「実践交流会」は2回・計2日、その他、「カリキュラム設計データベース（掲示板を含む）」で日常的な交流を行っている）

【問い合わせ】
国立大学法人京都大学
大学院教育学研究科
〒606-8501
京都府京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-3002